

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年3月10日

事業所名 多機能型障がい福祉事業所つながり

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	0		児童の状況を見ながら、各部屋毎に個別の対応をする等をして、スペースに余裕を持って活用できるように支援している。
	2 職員の配置数は適切である	2	2	0		人員配置基準は満たしているが、より充実した支援を提供出来るよう増員を検討している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1	1		スロープ等で車椅子は対応出来るようになっており、現在問題は見られないが、今後必要があれば、対策をしていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2	0	研修を実施しており、必要に応じてストラテジーシートを活用している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	0		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	1	2		当事業所のホームページが無いため、事業所の掲示板に張り出しを実施し、保護者への配布を行う予定である。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	0		現在は実施していないが、今後検討する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	0		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	3	0		事業所で作成したアセスメントシートを活用している。職員へ周知していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	2	0	子どもの日々の状況に応じて必要な支援をプログラムに組み込むようにしている。	長期休暇では様々な活動プログラムを組みやすいが、平日は固定化されてしまう事があるので、今後幅広い活動内容で支援が出来るよう工夫・検討していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	0	長期休暇には個別・集団を毎日設定を決めて対応している。	平日には日々の状況を見てその時時に応じて対応しているが、きめ細かい支援内容の設定には至らない日もあるので、プログラムの内容を検討する。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	0	保護者の困り感や、子どもの状況に応じた個別活動や集団活動を組み合わせた支援を検討し個別支援計画を作成している。	職員間で共通理解を持ち、より細やかな支援を実施出来るよう、ケース会議の回数を増やしより充実した個別支援計画を作成出来るように努める。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	0		毎朝就業前に打ち合わせを実施し、定期的に(週1回)まとまった時間をミーティングの時間として設けている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	0		支援終了後のミーティングは毎回ではなく、翌朝に実施される事もあるので、可能な限り当日話しあえるようにしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	1	0		ガイドラインについての職員研修をしており、支援内容に取り入れるようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	0	保護者・相談員・児童指導員・児発管が参加しており、複数の事業所を併用している児童は他事業の児童指導員・児発管も参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	0	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3	0	現在該当する児童なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1	0	移行前から移行後の様子など関係機関と情報共有や担当者会議を行い支援の統一を図っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	0	現在無し
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	0	定期的に研修を開催し講師として専門機関の職員から助言を受けており、今後も継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0	0	長期休暇等、田場児童館に通っている児童と交流をしており、今後も継続して行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	4	0	うるま市の連絡会に参加し、支援等の研修が実施する時には研修に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1	1	定期的に面談をち都度相談に乗ったり助言をする機会を設けている 今後ペアレント・トレーニングについての研修を実施する予定があり、支援で取り入れられるようにしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	0	サービス契約時に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	1	保護者の要望を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	0	1	今後会報等、検討していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	2	要望があれば見学等の受け入れをしている。また地域で開催される行事と一緒に参加させてもらう事で地域の方と交流する機会を設けている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	0	職員勉強会や全体研修で緊急時の対応等を学んでいる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2	0	現在該当する児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	0	現在該当する児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	0	